

## 5. ヒヤリハット・キガカリの取り組み状況

ヒヤリハット・キガカリ活動は、事業所の安全レベル向上と危険のない職場づくりのために、積極的に取り組んでいます。作業時からの提出件数は(表-17)のとおりです。作業員から提出された案件は、タスクチームで1件毎に内容を確認し、改善が望ましいと判断した案件については確実に改善を進めています。これらの実施状況については、毎月開催されるJESCO/運転会社の安全衛生協議会で報告されています。

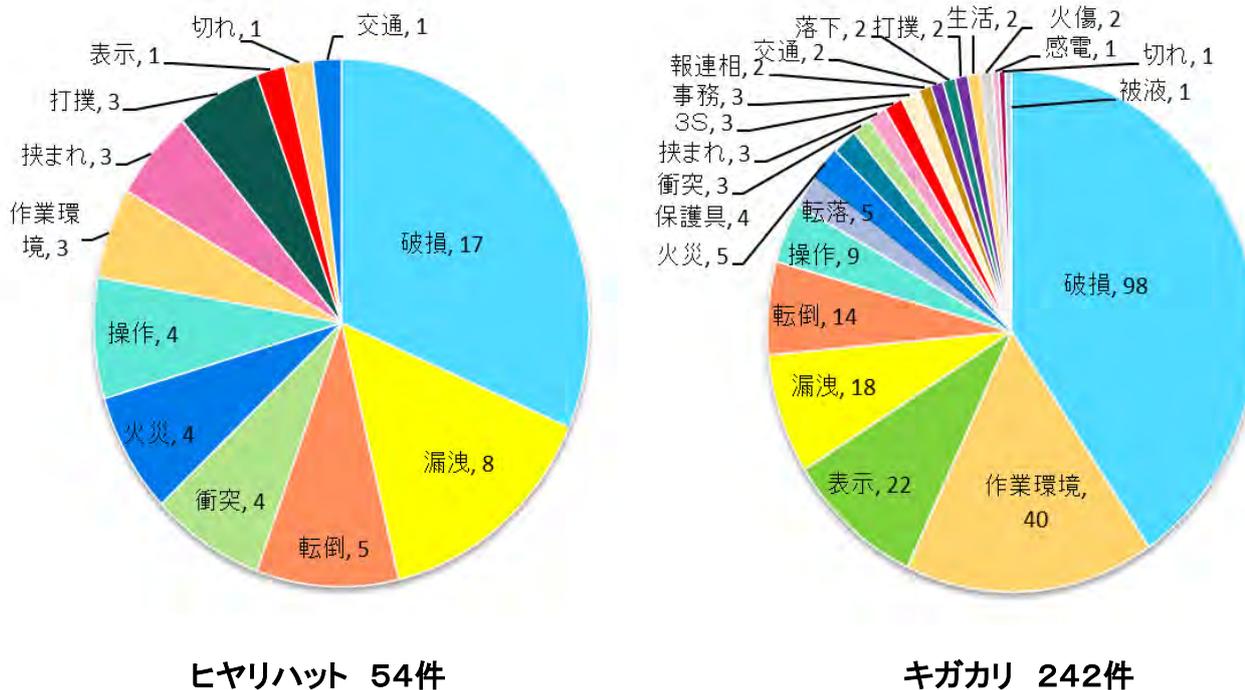
また、令和3年4月から令和4年7月の間に提出されたヒヤリハット・キガカリ案件の項目別分類は(図-6)に示すとおりです。

表-17 ヒヤリハット・キガカリの提出件数

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4*
ヒヤリハット	78	162	21	66	99	75	78	40	98	98	98	74	77	55	30	41	13
キガカリ	41	357	168	293	247	205	306	171	236	236	274	244	262	268	200	196	46

\*R4年7月末

図-6 ヒヤリハット・キガカリ項目別分類件数(令和3年4月～令和4年7月)



なお、労働災害の未然防止策をより有効に進めるため、JESCO全事業所においてヒヤリハット案件のリスク評価を行いリスクが高いものについては、インシデントと位置付けて本社に報告し各事業所に水平展開するとともにリスク低減策を講じています。

リスク評価は、リスクの見積もり(表-18)を基に評価しており、(表-19)にリスク評価結果を示します。大阪PCB処理事業所では、このリスク評価結果においてリスクレベルⅢ以上のものをインシデントとしていますが、令和3年4月以降では1件のリスクレベル

Ⅲ（操業上問題あり）の事象「解体作業時に重量物が落下し、空気配管を破断」をインシデントとして本社に報告しました。

表－18 リスクの見積もり

【環境・設備（操業）に係るリスク評価】  
 ヒヤリハットとは、作業中にヒヤリ又はハットするような、一歩間違えばトラブルに結びつく事象  
 この事象のリスク評価結果においてリスクレベルⅢ以上のものをインシデントと位置づけ

設備への影響 (操業)	点数	+	可能性	点数	=	リスクレベル	リスクポイント	リスクの程度	指定
大	10		確実	6		Ⅳ	12～16	操業上重大な問題有り	インシデント
中	6		大	4		Ⅲ	7～11	操業上問題有り	
小	3		有	2		Ⅱ	5～6	操業上多少問題有り	
微小	1		無	1		Ⅰ	～4	操業上問題なし	

表－19 ヒヤリハット情報のリスク評価（令和3年4月～令和4年7月）

月 リスクレベル	R3年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	計
Ⅳ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
Ⅱ	2	1	2	2	2	0	1	3	3	0	4	1	3	2	3	2	31
Ⅰ	2	0	0	3	3	3	0	3	2	2	2	0	0	2	0	0	22
合計	4	1	2	5	5	3	1	6	5	2	6	1	4	4	3	2	54

本年4月のインシデントとした事案は、西棟小型解体室の大型コンデンサ用素子押出装置の解体撤去工事にて、重量物（鉄製ウェイト、約50kg）2個の撤去作業において、手順書では吊具を使用する作業でした。1個目は吊具を使用しましたが、2個目は途中で吊具から外した際に落下させて、約50cm下の通気中のプラント用空気配管を破断させたものです。

プラント用空気が出ましたが、元弁を直ちに閉止しました。

作業員に対して、作業手順の遵守・確認の徹底を指導し、通気中の配管、通電中のケーブル等の確認・識別等を実施しました。



現場の状況（丸印個所が破断）



配管・ケーブルの識別状況（テープ）



## 6. PCB 廃棄物処理施設設備改造・運用変更

### 環境安全評価委員会開催状況

令和4年2月から令和4年7月末までに、弊社「PCB廃棄物処理施設設備改造・運用変更管理規程」に基づき環境安全評価（SA）委員会で審査された案件はありませんでした。

## 7. トラブル等の報告

前回の事業監視部会（令和4年3月）から令和4年7月末までの間に、施設の停止や労災に関わるトラブルの発生はありませんでした。

## 8. その他説明事項

### （1）新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う大阪事業所での対応状況

大阪PCB処理事業所においては、入口に体温測定器やアルコールスプレーの設置、手指衛生及び咳エチケット（マスクの着用を含む）事務所の換気等による予防処置、時差出勤・在宅勤務の導入や出張抑制、テレワーク及びテレビ会議を積極的に取入れるなど、人と人の接触機会を減らすよう対策を講じています。

今までJESCO及び運転会社社員が罹患しましたが、操業に影響を及ぼすことなく対応しています。



### （2）視察・見学状況

平成18年10月に見学受入を開始して以降、令和4年7月末現在で延べ1,497団体、11,645人が情報公開設備を視察・見学されました。視察・見学者の内訳は、地元市民をはじめ企業関係（PCB廃棄物保管事業者を含む）、行政関係、環境関係団体等の方々です。

海外からは、JICA研修で来られた方が多く見学されており、令和元年8月には、ダイオキシン類国際会議テクニカルツアーが開催され、各国から49名が見学されました。

表-20 視察・見学者数

(人)

年 月	総 数	企業関係	環境関係 団体等	一般関係	行政関係	学校・研修	自由見学	海 外
平成18年度	2,129	793	790	113	282	62	55	34
平成19年度	3,333	1,511	1,018	527	148	44	40	45
平成20年度	1,100	316	430	13	168	52	91	30
平成21年度	650	237	183	19	79	64	51	17
平成22年度	624	152	212	34	87	101	26	12
平成23年度	482	231	51	2	128	23	36	11
平成24年度	501	176	149	1	75	60	31	9
平成25年度	465	189	80	1	175	6	14	0
平成26年度	518	158	141	21	111	81	0	6
平成27年度	280	100	77	1	60	34	1	7
平成28年度	412	85	191	3	76	34	0	23
平成29年度	474	91	257	0	39	57	7	23
平成30年度	291	34	85	29	116	10	2	15
令和1年度	309	60	122	0	51	16	5	55
令和2年度	10	0	0	0	10	0	0	0
令和3年度	52	0	0	5	47	0	0	0
令和4年4月～7月末	15	0	0	0	13	0	2	0
合 計	11,645	4,133	3,786	769	1,665	644	361	287

「環境関係団体等」：環境関係団体や議会等の各種団体

### (3) 緊急時対応訓練実施状況

令和3年度は「火災発生」を、令和4年度は「漏洩発生」をテーマとして、グループごとに個別事象を設定して取り組んでいます。今後も毎月1回の訓練を計画しています。(表-21)

今後、実施する予定の震災訓練、消防総合訓練等につきましても、新型コロナウイルス感染症対策を実施した対応とします。

表-21 緊急時対応訓練実績

開催予定	訓練内容	実施日
令和4年 1月開催	火災対応訓練(液処理グループ)	延期
2月開催	火災対応訓練(VTRグループ)	延期
3月開催	火災対応訓練(解体グループ)	中止
4月開催	火災対応訓練(液処理グループ)	4月26日
5月開催	火災対応訓練(VTRグループ)	6月1日
6月開催	漏洩対応訓練(中央制御グループ)	6月29日
7月開催	漏洩対応訓練(解体グループ)	7月25日



火災対応訓練 (6月1日)



漏洩対応訓練 (7月25日)

#### (4)安全教育実施状況

無事故無災害でPCB処理を進めるため、所員の安全意識、知識の向上を図ることを目的に毎月安全教育を実施しています。(表-22)

テーマについては、コンプライアンス、環境マネジメント、熱中症対策等、幅広くテーマを設けて実施しています。

安全教育は、新型コロナウイルス感染症の対策として、短時間での開催、また書面での開催としています。

表-22 安全教育実績

開催予定	教育内容	実施日
令和4年 1月開催	外部講師による講演	中止
2月開催	救命救急	書面開催
3月開催	コンプライアンスについて	書面開催
4月開催	環境マネジメント教育	4月14日
5月開催	熱中症対策	5月19日
6月開催	ヒヤリハット事例	書面開催
7月開催	令和4年度 夏期定期点検工事	書面開催



環境マネジメント教育（4月14日）



熱中症対策（5月19日）